

「木に親しむ日」の木工教室 参加者募集

今回の木工教室では、踏み台、収納、スツールなど多用途に使うことができる「踏み台スツール」を作ります。

参加受付は 6 月 5 日（月）～6 月 11 日（日）までです。
 今回の木に親しむ日の木工教室は、申込み先着順ではなく、
 受付終了後、抽選とさせていただきます。あらかじめご了
 承ください。受付期間内に参加申込みいただいた皆さんに、
6 月 14 日（水）以降、抽選結果をご連絡いたします。参加
 を希望される方は、森理工芸館（5 2 - 3 1 7 0）までご連絡
 ください。

内 容：踏み台スツール

日にち：7月から9月までの全6回 …………… 詳細は→

時間：19：00～21：00

場 所：森林工芸館（旧開発センター）木工室

対 象：18歳以上の置戸町民

定 員：5 名

参加費：5,500円（初回にご持参ください）

講師：那珂 琴絵（どま工房主任研究員）

【蕎麦猪口 -持ちやすい「きまり寸法」のお手本-】

持ちやすい「きまり寸法」のお手本として、秋岡さんが愛用した【蕎麦猪口】。自身の著書でも手に持つ万能食器として紹介している。

秋岡さんが使う「きまり寸法」とは、長い歴史の中で、自然とできあがった寸法のこと。科学的に検証された数値ではなく、昔のユーザーが使いやすさを求め追求した結果、落ち着いた寸法であり、現在もその寸法がほとんど変わることなく使用されている。蕎麦猪口も例外なくきまり寸法で作られ、その口径はおよそ直径 80mm 前後で三寸弱。日本人の手にちょうどすっぽりと収まる大きさとなっている。

この蕎麦猪口、秋岡さんが万能食器と挙げているように、蕎麦を食べるだけでなく、小鉢や向付、湯のみやぐい呑みというように、様々な場面で使用することができる。また、重なりが良い形状はスタッキングした時の安定感も抜群で、持ち運びや収納時にもぐらつくことがない。取っ手等の特別な装飾がない形状も、利き手の違いや使い方を特定せず幅広く使用することができることから、**食器の優等生**とも言える。

[illegible]

3.
コカ
シヨ
クミ
シ
ン

蕎麦猪口の図柄で最も多く、二棟並みとなる。奥に手前より大が家屋、その後ろに山が基本の配置。

〔東屋・山水・夕陽〕蕎麦猪口の図柄で最も多く、手前に大が家屋、奥に二棟並みとなる。奥に手前より大が家屋、その後ろに山が基本の配置。

〔吉竹梅文〕「松竹梅文」のひとつである「松竹梅」は縁起の良い文様。資料け蕎麦猪口の形状として最も基本的なもの。

〔楡垣文〕直線を描かれた図柄は一見、幾何学的な印象を受ける。流れる様な線画が美しい。

〔若松・霞文・四方博文〕「松竹梅」のひとつである「松竹文」は縁起の良い文様。図柄の松は不老長寿の象徴とされる。



※画像はイメージです
※実際に製作するものとは異なる場合があります

◎今年のスケジュールは下記のとおりです。

日 程： 7月7日(金)、7月21日(金)

8月4日(金)、8月21日(月)

9月7日(木)、9月21日(木)

今月の一品

かくれた一品 おすすめの一品
毎日 オケクラフトとともにいる
私たちの一品をご紹介します！



商品名：リムプレート
サイズ：①直径 150mm ②直径 180mm
③直径 210mm ④直径 240mm
※高さは、①20mm、他 22mm

【価格】
針葉樹：① 2,420 円 ② 2,860 円
③ 3,520 円 ④ 4,730 円
広葉樹：① 2,750 円 ② 3,190 円
③ 3,850 円 ④ 5,060 円

【樹種】
針葉樹：エゾマツ
広葉樹：カバ、セン、クルミ、ニレ
キハダ、サクラ、ナラ、ハン

私がおすすめる今月の一品は、【まめもく】の「リムプレート」です。「リム」とは、お皿の一段上がったフチの部分のことです。そのフチがあるお皿を「リムプレート」といいます。

フチの部分の余白があることで、持ちやすく、樹種やサイズも各種取り揃えていますので、パスタやデザートを見映えよく盛り付けることができるでしょう。

シンプルでスタイリッシュな木製リムプレートを記念日や、おもてなしパーティーの一皿に加えてみませんか？



ショップ販売員
平

『工房見学』

4月に1年生として岡村さんを迎え、3名となった塾生は、日々、木工ろくろに向かいながら、自身の作品づくりと技術の向上に励んでいます。そんな中、5月中旬から6月の初旬にかけて、現在町内に工房を構える24名の作り手（うち、森林工芸館内工房1名、共同工房1名）の工房見学が実施されています。コロナ禍では、なかなか伺うことも戸惑われた工房見学ですが、規制が緩和され少しずつ本来の研修を実施できるようになってきました。

工房見学では、独立後の工房に必要な設備や、作業環境を整える動線を知るだけではなく、経験豊富な先輩方のお話を伺うことで、自身の独立後のビジョンが少しずつ見えてきたのではないかと感じます。

こちらのQRコードから「森林工芸館のあれこれ」バックナンバーをご覧ください。



毎月
1日発行
——
森林工芸館
発行

森林工芸館の
あれこれ

おい
塾生さ

塾生さん、いま何してる？

